

優良取組事例⑧

優良取組事例	<p>1 エリアに応じた集配（バス停方式の導入とチーム集配） 集配車両 1 台とリヤカー付き電動自転車・台車数台を 1 チームとする、人員配置とエネルギーの効率化</p> <p>2 エコドライブの推進（エコナビゲーションシステムの導入） 運転の「見える化」による「環境保全」、「安全運転」、「省燃費」のトリプル効果</p>			
その他取組事例	<p>3 低公害車の導入 ハイブリッド車の導入</p> <p>4 モーダルシフトの展開 トラック運送から鉄道・海運へとモーダルシフト</p>			
事業者名	ヤマト運輸株式会社			
事業所名	岡山主管支店			
主たる業種	道路貨物運送業			
事業の概要	貨物自動車運送業			
温室効果ガス排出量	基準年度	7,952 tCO ₂	当該年度	8,291 tCO ₂
原単位当たり排出量 (宅急便個数)	基準年度	175.3 kgCO ₂ /千個	当該年度	169.4 kgCO ₂ /千個
当該年度削減実績	総排出量削減率	-4.3 %	原単位削減率	3.4 %
エネルギー消費が大きい設備	貨物自動車			

1 エリアに応じた集配（バス停方式の導入とチーム集配）

●取組前の課題

自動車による街中の集配は、駐停車の回数が多く、安全や環境面で課題となっていた。

●取組

集配車両 1 台とリヤカー付き電動自転車・台車数台を 1 チームとし、市街地や住宅密集地域を中心にチーム集配を実施している。（現在、エリア拡大中）

チーム集配とは、集配車両 1 台（母体）に荷物を積み、あらかじめ設定した安全な停車ポイント（=バス停ポイント（荷物受け渡し所））でリヤカー付き電動自転車や台車による集配員へ荷物を受け渡すものである。



バス停方式



リヤカー付き電動自転車



台車

●効果

集配車の燃料低減はもちろんのこと、集配による事故発生の低減や業務の効率化が図れた。

2 エコドライブの推進（エコナビゲーションシステムの導入）

●取組前の課題

自動車による集配が主であるため、過剰な燃料消費の抑制による CO2 排出量の削減、安全運転に対する効果的な対応が必要であった。

●取組

「環境保全」、「安全運転」、「省燃費」のトリプル効果を実現するエコドライブに取り組んでいる。
・独自の車載システム（エコナビゲーションシステム「See-T Navi（シーティーナビ）」）を開発・導入

運転日報や安全・省エネ運転日報に各ドライバーの運転が数字で表れるよう、運転の「見える化」を可能にしたシステムである。また、危険エリアや一方通行などの情報をあらかじめ登録し、実際の場所にさしかかると音声アナウンスで注意を促す機能を搭載している。

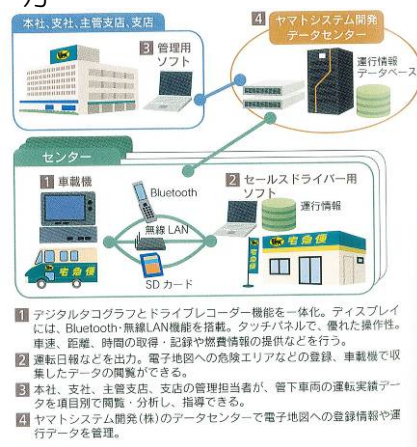
現在、車載システムの設置車両を拡大している。

●効果

運転の細部まで「見える化」されたことで、自分の運転を振り返って改善することが可能となった。



運転日報や安全・省エネ運転日報を相互に検証



「See-T Navi」イメージ図

3 低公害車の導入

●取組前の課題

CSR（企業の社会的責任）に基づき、地球温暖化防止に向けた CO2 排出量削減の取組が必要となっていた。

●取組

十数年前から低公害車の導入を進めており、現在、岡山主管支店では、集配車両の約 30%が低公害車両（ハイブリッド車：約 150 台、LPG 車：約 20 台）である。



ハイブリッド車

●今後の課題

平成 24 年度までに低公害車を会社全体で累計 2 万台導入することを目標にしている。そのため、岡山においても低公害車の導入を推進していく。

4 モーダルシフトの展開

●取組前の課題

中長距離の幹線輸送による燃料消費量の低減に向けた取組が必要となっていた。

●取組

トラックによる運送から鉄道・海運へとモーダルシフトを展開している。
岡山主管支店では、配達期日に余裕のある荷物を鉄道によって運送している。
（東京からの定期便：5t コンテナ 2 基/日）

●今後の課題

鉄道は、天候・事故に大きく左右されるため、配達期日に余裕のある荷物を優先して有効に利用していく。